



応用理数コース(数理科学系, 自然科学系)



社会基盤デザインコース



機械科学コース



応用化学システムコース



電気電子システムコース



情報光システムコース(情報系, 光系)

工学部から理工学部への改組

2016(平成28)年4月に総合科学部の理系学科と生物工学科を除く工学部の各学科から、基盤・基礎としての「理」、応用・実践としての「工」を融合し、新たな科学技術創出の担い手や中学・高校における理系教員輩出という人材育成をねらいとして理工学部を設置した。理工学部は一学科構成で昼間コースと夜間主コースがあり、それらの各コースはさらに6コース(応用理数コース、社会基盤デザインコース、機械科学コース、応用化学システムコース、電気電子システムコース、情報光システムコース)から構成されている。自分の専門選択でミスマッチを生じないように、入学時に希望、入試成績でどこかのコースに仮配属され、そこで理工学部生としての幅広い数理・自然科学及び科学技術の基礎を学ぶ。そこでの勉学を通してそのコースが自分に適したコースでなければ2年次進級時にコース変更ができる。

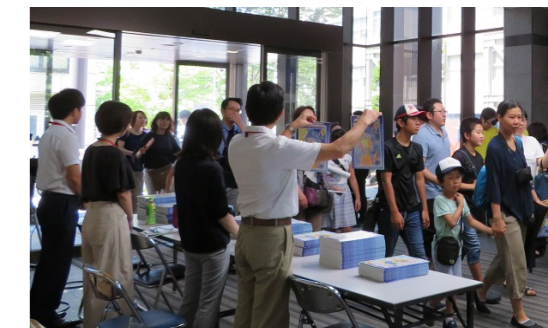
「科学体験フェスティバル in 徳島」

「科学体験フェスティバル in 徳島」は、徳島大学工学部が「工学離れ」に危機感を抱き、一人でも多くの学生を工学部に入学してもらうきっかけを作るために、1997(平成9)年から開始し、2019(令和元)年度で23回(第18回大会は台風で中止)を数える徳島県の夏の風物詩となっている工学部・理工学部が主催する行事である。第1回からの本大会のコンセプトは、「さわって、つくって、たのしい科学」である。本学はもとより、徳島県および近隣の企業、大学、高等学校、中学校が、それぞれのユニークな視点から「科学の実験」を子供たちに提供し、子供たちに「楽しい科学」を体験してもらっている。また、各参加団体もこの行事を通じて参加団体内のメンバーの気持ちを一致させて、参加団体自体の志気を上げるなど、本大会への明確な意義を持って参加し、様々な相乗効果を生みながら発展している。第1回の参加者数8,000人であったが、第22回も9,000名の参加者を維持し、徳島市内の子どもたちが、小学校卒業まで複数回参加することが当たり前になっている。現在では、中学生向けの取組も行うようになっている。本行事の本学工学部入学生に対する影響を検証するアンケート調査を行ったところ、このフェスティバルへの参加が工学部入学を志すきっかけとなったと回答する学生もおり、工学離れを防ぐことに寄与していることが明らかになった。このような成果から、2011(平成23)年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学

技術賞(理解増進部門)「科学体験フェスティバル in 徳島による理系心学の普及啓発」を受賞し、全国的な評価を得た。現在では、事業者からの参加者のなかに、子供の時にこの行事に参加し、幼少時に身についた科学への関心を、次の世代につなごうとする若者も出てきている。教員、技術職員、事務職員の密接な連携で、大会を楽しく安全に進める詳細なノウハウもでき、徳島大学では類を見ない一大行事に発展している。



第20回科学体験フェスティバル(H29.8.6)



第22回科学体験フェスティバル(H31.8.3-4)